

予報期間 12月8日から12月14日まで

## ◆今期間のポイント

## ＜主要しょう乱の概要＞

- 10日は、低気圧がオホーツク海をゆっくり北上する。高気圧が日本の東と西日本付近へ移動して、日本海は気圧の谷となる。
- 11日は、気圧の谷が北日本付近を通過して日本の東へ進み、大陸の高気圧が張り出して日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 12日は、北日本付近は冬型の気圧配置が続き、大陸からの高気圧が朝鮮半島北部へ移動する。
- 13日は、高気圧が日本の東へ移動し、低気圧が日本海西部に進む。
- 14日は、低気圧が日本海を東へ移動し、本州南岸に発生した前線を伴った低気圧が三陸沖へ進む。

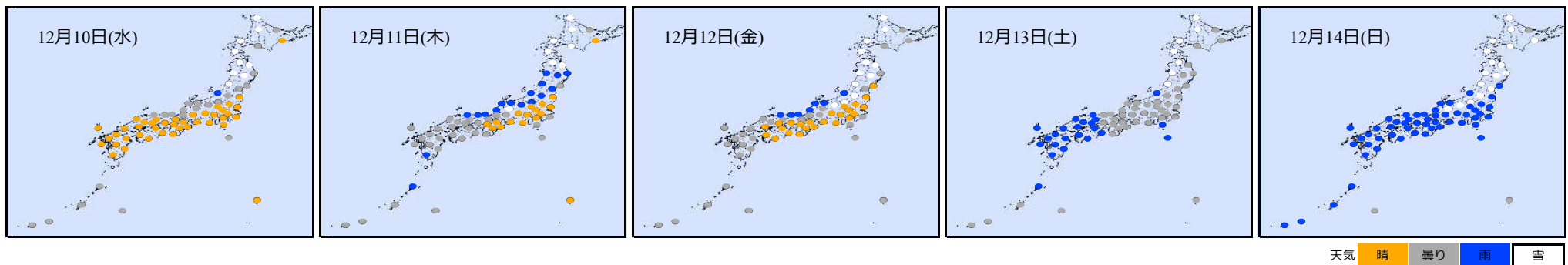
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

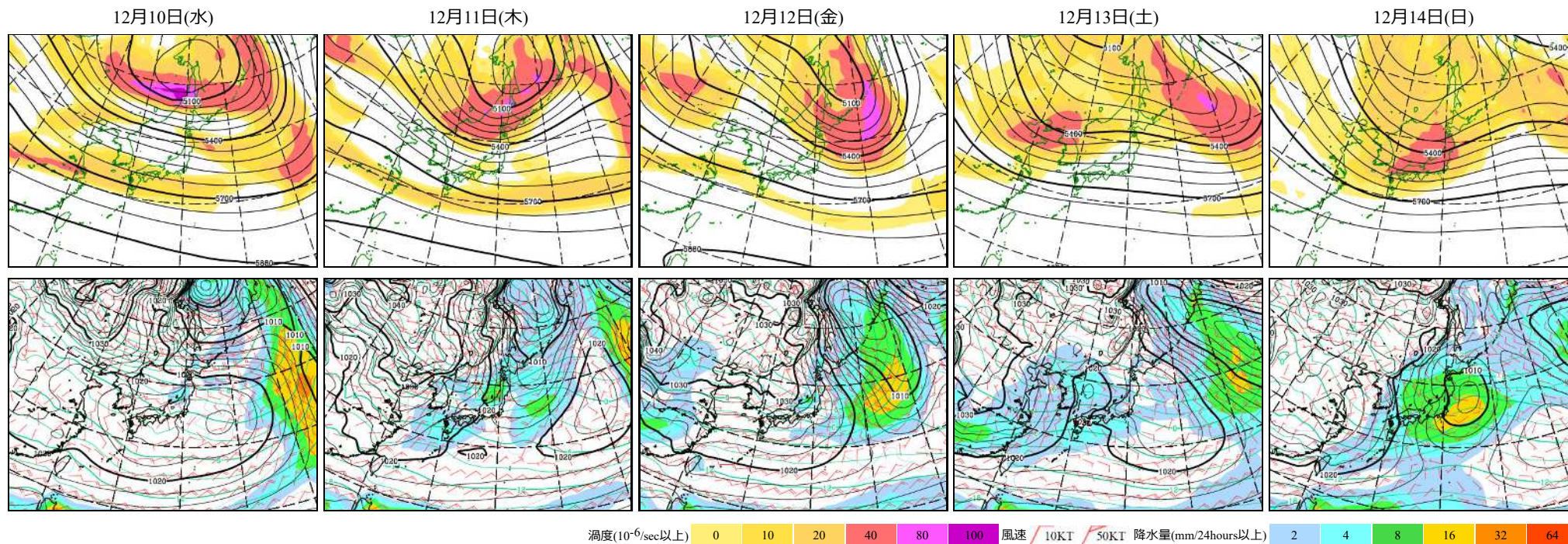
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



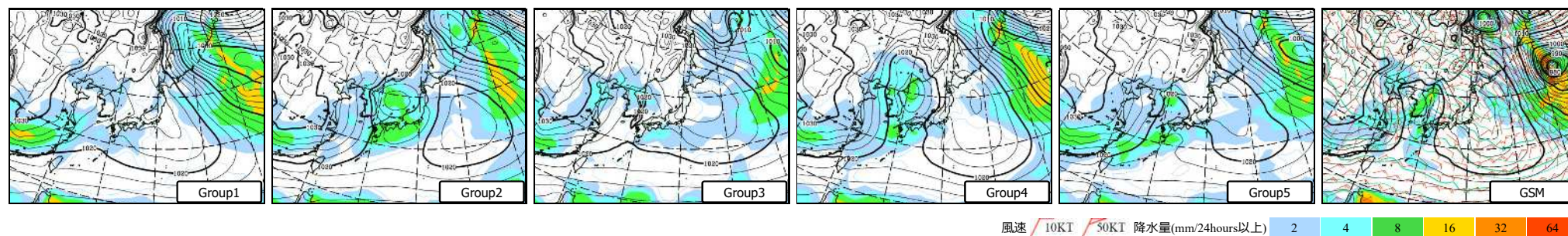
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、14日は雨または雪の降る所が多い。
- 西日本太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多いが、11日と13日から14日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、11日と13日から14日は雨の降る所がある。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月13日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、13日から14日にかけて日本付近を東進する低気圧の進みが遅くなった。このため13日は、東日本から近畿地方を中心に降水確率ガイダンスの値が小さくなった所が多い。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、5400mの特定高度線のバラつきも期間の終わりで大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。